



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特集 : 「東アジアにおけるメディア文化フローのダイナミズム」 巻頭言
Author(s)	渡邊, 浩平; Watanabe, Kohei
Citation	国際広報メディア・観光学ジャーナル, 18, 3
Issue Date	2014-03-18
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/55176">https://hdl.handle.net/2115/55176</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/">https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/</a>
Type	other
File Information	Jimcts18_01_Watanabe.pdf



## 特集 東アジアにおけるメディア文化フローのダイナミズム

## 巻 頭 言

東アジアメディア研究センター・センター長  
渡邊浩平

本特集は、東アジアにおけるメディア文化フローをめぐって北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院の教員と国際広報メディア・観光学院の院生による4本の論文からなる。

周知の通り1990年代以降、トランスナショナルな文化フローは、東アジアという地域を考える上で、極めて重要な要素としてとらえられてきた。東アジアの文化市場において「クール・ジャパン」や「韓流」などと名づけられた大衆文化商品は国境を越えて流通し、既存の文化産業の構造や地域内での文化的関係を変容させてきたからである。しかしながら、「クール・ジャパン」や「韓流」といった名称がいみじくも示しているように、「国」という問題は依然東アジア諸国の文化的ありように影響を与えていると言える。つまり今日われわれがメディアをつうじて体験しているものは、国民国家の境界を複雑に絡み合いながら往来し、生成された文化現象と言えるからである。

このような観点の下、本特集では東アジアの文化フローに焦点を当て、何が国境を越えて共有され、また何が国境を越えられないのか、その問題について、理論的考察（金成玟）、アニメソングをめぐる共通の経験（玄武岩）、特撮テレビドラマのフォーマットの越境（平侑子・張慶在）、リメイクドラマにおける社会性の共有（芳賀恵・金周英・玄武岩）といった側面から考察した。本特集が「フロー（flows）」という言葉を用いているのは、「国境」をつねに変容する流動的なものとして捉える観点をわれわれが共有しているからだ。

本特集に掲載された2本の論文は、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院東アジアメディア研究センター主催の特別演習「東アジアにおけるメディア文化フローの調査研究プロジェクト」や院内共同研究プロジェクト「拡張現実の時代における〈場所〉と〈他者〉に関する領域横断的研究」での研究活動の成果であり、大学院生主導でまとめられたものである。2013年度一学期に行われた特別演習では、何北航（修士課程）の「なぜ“銀魂”は中国の若者に好かれているのかー主人公坂田銀時の台詞の分析を中心に」を含む三つの研究が院生によってなされた。ここに掲載された論文はそのうち平侑子・張慶在（以上博士課程）、芳賀恵・金周英（以上修士課程）によるものである。二組の院生による研究は、2013年北海道大学サステナビリティ・ウィークにおける国際シンポジウム「メディアの越境は何をもたらすのか」（於：北海道大学、2013年11月2日）をはじめ、学会や研究会の場で発表された。本特集は、この2本の院生の研究に教員の論文2本を加え、構成したものである。